

第57回農林水産祭

農林水産祭は、国民の皆さんに農林水産業と食に対する認識を深めていただくために、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会が共催して、昭和37年から実施され、今年で57回目となります。

農林水産祭では、過去1年間の農林水産祭参加表彰行事において農林水産大臣賞を受賞された方の中から、天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞が選ばれます。

林産部門では65の出品財の書類審査及び現地審査を経て、天皇杯に速水亨氏、紫乃氏(夫婦での受賞)(三重県北牟婁郡紀北町)、内閣総理大臣賞に谷地司氏(岩手県久慈市)、日本農林漁業振興会会長賞に山下木材株式会社製材工場(岡山県真庭市)が選出されました。

天皇杯

速水 亨氏・速水 紫乃氏 (三重県北牟婁郡紀北町)

～環境配慮型の森林づくりを実践する日本有数の林業家～

ご夫婦での受賞となった速水亨・紫乃両氏は、持続可能な森林経営の確立を目標に、生物の多様性を創出・維持しつつ人工林を中心とした自己所有林を育成しています。

環境配慮型の国際的基準を持つFSC認証を日本で最初に取得し、その後の国内における森林認証の普及に大きく貢献するとともに、高性能林業機械であるタワーヤーダを日本で初めて導入し、他の林業機械と組み合わせた搬出システムを独自に開発することで、間伐、皆伐の生産性向上を実現しました。

また、ポット苗生産技術の確立や選抜育種、下刈り回数の減少等に取り組み、30年生までのha当たりの育林労働投下を、400人工(作業に要する延べ人数)以上から、90人工台まで大きく引き下げることに成功しています。

これらの取組により、作業の効率化やコスト削減、市場開拓等の経済性を追求するとともに、その成果を多方面に普及啓発する活動を行ってきた日本有数の林業家です。



内閣総理大臣賞

谷地 司氏 (岩手県久慈市)

～製炭技術と地域産業を継承する優れた製炭技術者～

谷地氏は、木炭の生産量全国1位で、地域ブランド品を知的財産として保護するGI(地理的表示)を岩手木炭で取得し産地としての先進的な取組が進められている岩手県にあって、岩手県木炭品評会で連続6回の最優秀賞を受賞し、火持ちの良い高品質な木炭を生産している優れた製炭技術者であるとともに、築窯・製炭技術の普及・指導の中核となる生産者に与えられる岩手県製炭技士の認定を受けるなど、指導者としても高い評価を得ています。

製炭技術を若い世代に引き継ぐため、他の生産者への技術指導にも積極的に取り組んでいるほか、県内外の学生への炭焼き体験、林業大学校の木炭生産講座の講師など、製炭技術の継承を通じた地域産業の発展にも貢献する地域のリーダーであり、近年、本物志向の外食産業で需要が高まっている特用林産物の振興等にも好影響を与えることが期待されます(木炭での受賞は初)。



～地域と共存共栄し、高品質、高付加価値材を生産する製材工場～

山下木材株式会社製材工場は、独自の乾燥装置の開発・改良や乾燥スケジュールの確立を図るとともに、工場内に設けた養生スペースで一定期間含水率の均一化を図った上で、含水率の測定や強度試験を行うなどの徹底した品質管理により、高価格での製材品の販売を実現しています。

また、20社を超える製材工場が操業する真庭市にあって、得意とする地域ブランド「美作KD材」といった高品質材の確立に貢献し、地域全体での高付加価値化を図るとともに、真庭市が先進地である木材産業発展の一翼も担うなど、地域と共存共栄し、高品質、高付加価値材を生産する製材工場の模範です。



11月2日(金)、3日(土)
「実りのフェスティバル」

農林水産祭行事として恒例の「実りのフェスティバル」が開催され、天皇杯等の受賞者の紹介とともに、様々なコーナーが設置されました(東京都豊島区)。

林野庁でも「木づかい運動」と題し、森林のサイクルや木材利用についてパネルで紹介し、国産材を使った木のおもちゃなどを展示ブースを訪れた親子連れをはじめ多くの方々に、木目や香りの異なる様々な木製品を手にとっていただきました。

会場内は、各都道府県等のブースで郷土特産物の展示・即売がされるなど、終日多くの来場者でにぎわっていました。

